

市指定ごみ袋 安定供給の情報発信は

山岡 幹雄議員

ごみ分別促進アプリで情報を届ける
市民協働部長



問 指定ごみ袋の現在の供給状況及び在庫状況は。

答 愛西市商工会を通じて販売店で供給。令和8年4月末の在庫は、販売実績に基づき年間需要量の約3〜4か月分を保有している。

問 今回のような原材料供給不安による流通混乱に対し、市の危機管理体制の構築は。

答 海部地区環境事務組合の構成団体と共同で入札発注。令和8年度の契約において、年間発注予定量に応じた原材料が確保されており、現時点では生産・供給体制に支障はない。

問 県内で指定ごみ袋の品薄が報道され、店頭在庫が不足する事例が見られる。市民の不安を解消するために安定供給の情報発信は。

答 ごみ分別促進アプリさんあゝるなどで届ける。

HASUパーク 周辺の道路整備は

問 本年4月に道の駅ふれあいの里HASUパークがグランドオープン。多くの来訪者でにぎわっている。この施設のコンセプトや運営方針、交通渋滞対策、道路整備の進捗状況、さらにはオープン後の来場者数や地域活性化への効果は。

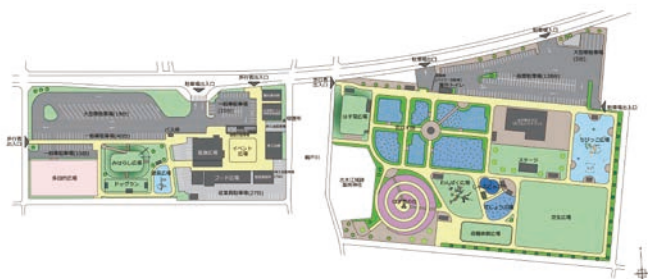
答 施設は観光交流拠点として整備され、渋滞予防看板の設置や臨時駐車場の確保、SNSやホームページを活用した情報発信などの対策を実施。5月10日までの来場者数は約18万人に達し、産直広場の利用者数や売上げも大幅に増加するなど、交流人口の拡大や地域活性化に大きな効果が現れている。

問 広域営農団地農道整備事業（立田地域）のこれまでの整備内容と、今後の道路整備の方向性は。

答 広域営農団地農道整備事業立田地域は、愛知県を事業主体として平成5年度から整備が進められ、令和7年度に全線開通した。当初計画は見直され、市道2号線との機能重複を考慮した現在のルートで事業が完了している。

問 地元農産物の販路拡大について、出荷農家数や売上の増加など、具体的な成果は。

答 6年度末の産直広場の農産物及び加工品の会員数は約150人、8年5月現在の登録生産者数は約250人と増加している。



▲道の駅ふれあいの里HASUパーク全体配置図